

2016年 11月 14日

兵庫教育大学長 殿

受入研究者

所属・職 特別支援教育専攻・教授

氏名 石倉 健二



外国人研究者短期招へいプログラム研究成果報告書

外国人招へい研究者の研究経過について、下記のとおり報告します。

1. 外国人招へい研究者 氏名 (所属・職・国籍)
Davaasuren Munkhjargal (モンゴル国立教育大学・教授/学長・モンゴル)
2. 研究課題名
モンゴルと日本の教師教育に関する共同研究についての検討
(英訳名) The meeting about co-operation for teacher education with Mongol and Japan.
3. 期間
2016年 10月 13日 ～ 2016年 10月 21日 (9日間)
4. 主な研究協力者 氏名 (所属・職・氏名)
特別支援教育専攻・教授・井澤信三

(注) 必ず招へい研究者の作成した Research Report と併せて、招へい期間終了後1か月以内に、提出してください。 (裏面につづく)

5. 滞在中の日程

年月日	訪問先名称・訪問内容（研究討議・講演・視察等）
2016年	
10月13日	関西空港着
10月14日	名古屋大学松尾清一総長（表敬訪問） 名古屋大学心の発達支援研究実践センターで研究打合せ
10月15日	名古屋大学心の発達支援教育実践センターで研究打合せ
10月16日	花園大学非常勤講師林賢三氏と研究打合せ
10月17日	兵庫教育大学の見学及び講演準備、石倉と研究打合せ
10月18日	兵庫教育大学にて講演（テーマ：モンゴルの学校教育と教師教育）
10月19日	岡山理科大学にて研究打合せ
10月20日	兵庫教育大学にて福田学長と懇談、石倉と研究打合せ
10月21日	関西空港から帰国

（注）来日日及び離日日を含めて記入してください。

6. 研究討議・研究協力等実施の状況とその成果

<p>【研究討議の状況と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在進行中の“インクルーシブ教育を担う教員養成システム開発についての日蒙共同研究”についてその成果や意義について確認し、研究が終了するようにモンゴル国立教育大学側の協力を確認した。 ・モンゴル国立教育大学での特別ニーズ教育担当教員養成課程の整備における共同研究と、特別なニーズ教育担当教員養成を担当できる大学教員育成の必要性を確認した。 ・特別なニーズ教育担当教員養成課程に限らず、モンゴル国立教育大学の大学教員養成における日本の大学（兵庫教育大学、名古屋大学、岡山理科大学）の協力の必要性が確認された。
--

7. 外国人招へい研究者事業に対する意見・要望等

<p>特になし。</p>

* Please submit your research report to HUTE through your host researcher within one month after the end of your Fellowship Period in Japan.

To President, HUTE

HUTE SHORT-TERM FELLOWSHIP PROGRAM
FOR RESEARCH IN JAPAN
RESEARCH REPORT

(Cover Page)

Affiliation: Mongolian National University of Teacher Education

Name of the Host Researcher: Ishikura Kenji

Fellowship Period: From 2016/Oct./13 To 2016/Oct./21

Title of the Research:

The meeting about co-operation for teacher education with Mongol and Japan.

Date: 2016/10/31

Your Signature: *D. Munkhbayar*

* Future Contact Information

(If you wish HUTE to maintain contact with you after the completion of your fellowship)

(Office/~~Home~~)

Fax No.:

E-mail Address:

Address: I

モンゴルと日本の教師教育に関する共同研究についての検討

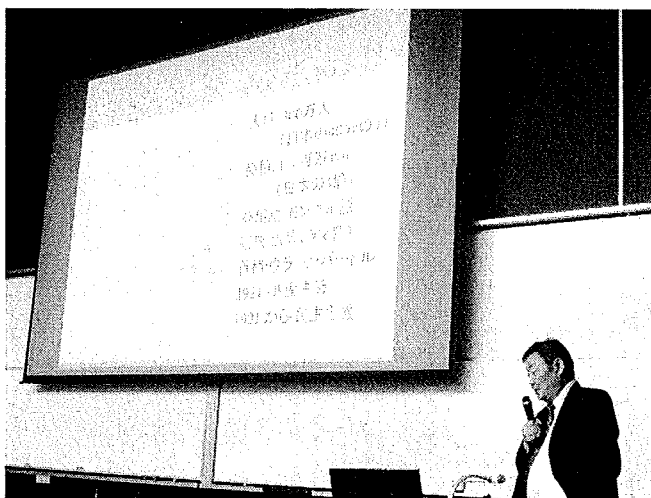
モンゴル国立教育大学 Davaasuren Munkhjargal
兵庫教育大学大学院 石倉健二

2016 年 10 月 18 日の講演会と共同研究の内容を抜粋して、以下の通り報告を行う。

1 モンゴルの教師教育

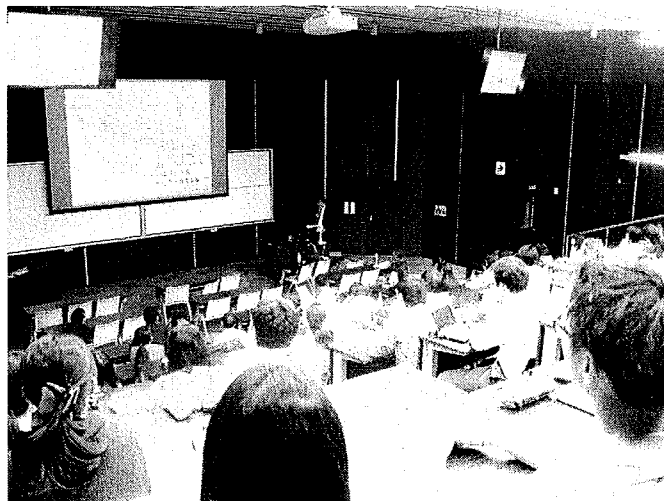
(1) モンゴルの学校教育の歴史的背景

- ・歴史的にはソビエト型の教育制度と内容、方法であった。
- ・遊牧民の子ども達のために、宿舎を備えた遊牧民対応型学校を設置している。
- ・宗教的、政治的に中立な教育を行っている。
- ・性差別のない教育を行っている。
- ・すべての子ども達への教育を提供している。
- ・2004 年までは 10 年制、2005～2007 年は 11 年制、2008 年以降は 12 年制（5・4・3 年制）に移行した。
- ・2015 年の就学率は、小学校 96.0%、中学校 91.0%となっている。中学校で就学率がやや低下するのは、貧困や家業のためと考えられる。
- ・モンゴル教育文化科学省は 2012 年に“Quality improvement policy of education 2012”を発表し、ひとりひとり子どもたちの発達を基盤とした 12 年制カリキュラムの刷新（K-12 curriculum refining based on the conception, development of each individual child）を目指している。

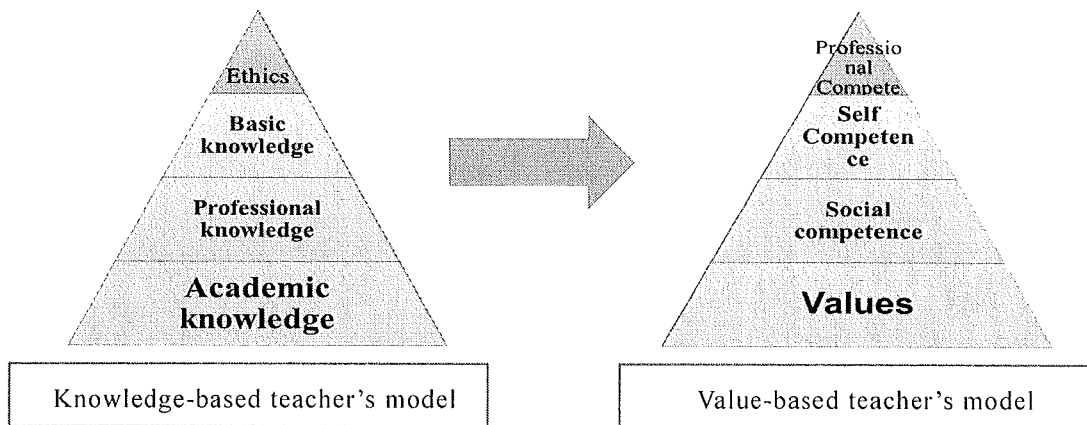


(2) モンゴルの教師教育とモンゴル国立教育大学（MNUE）

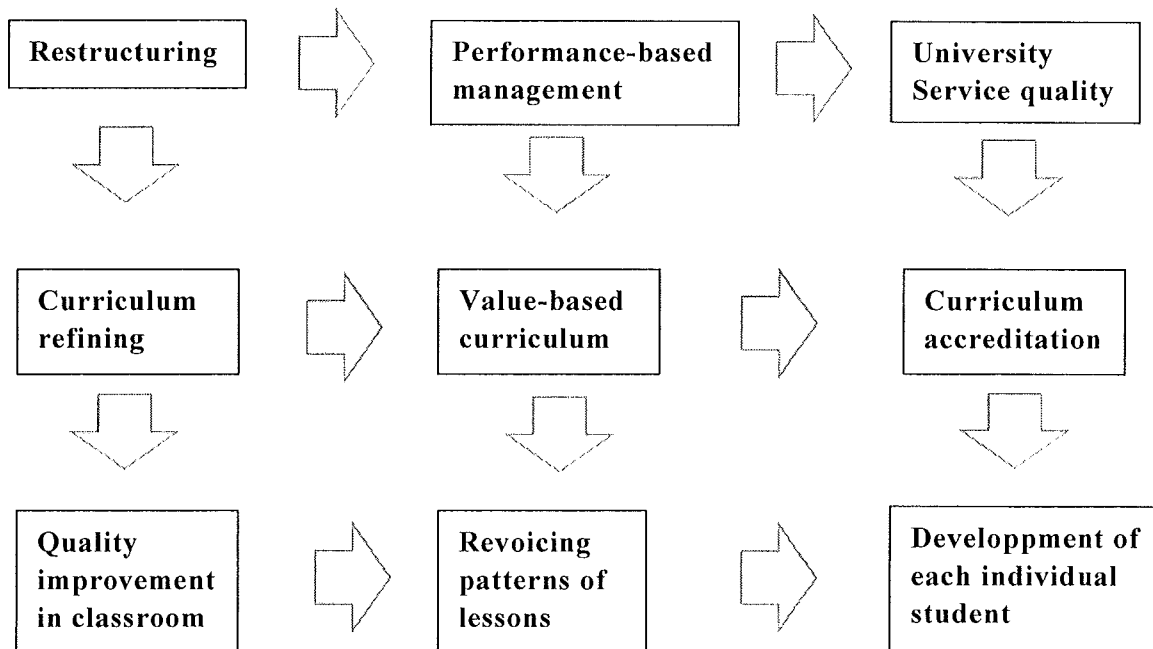
- ・MNUE は、モンゴル国内の教師の 90%以上を育ててきた。
- ・2016 年の学生数は 13,900 人、大学教員は 598 人である。
- ・MNUE のコンセプトは、NURTURING TRANSFORMATIVE TEACHERS AND RESEARCHERS WHO ARE COMPETENT TO DEVELOP EVERY CHILD.（リーダーシップを発揮しながら、子どもの発達や個性を育む教師や専門家を育成する）である。



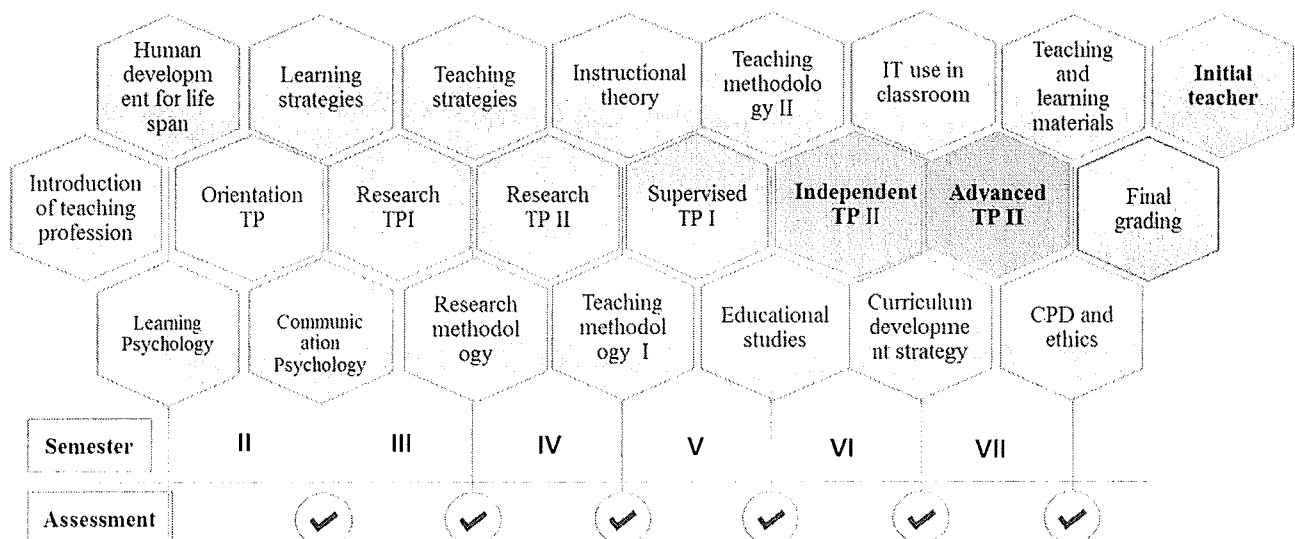
- ・ 現在、知識を基盤とした教師モデルから価値を基盤とした教師モデルへの転換を図っている。



- ・ 教師教育のための改善を以下のプロセスで行う。



- ・ 実践中心のカリキュラム統合を以下のように行っている。



2 モンゴルの特別なニーズ教育と特別なニーズ教育担当教師の養成について

(1) モンゴルにおける特別なニーズ教育の歴史と今日的動向

- ・モンゴルが社会主義国としての宣言を行ったのは1960年で、1962年から障害児を対象とした教育への取り組みが始まった。
- ・視覚障害と聴覚障害を対象とする第29学校の設立に引き続き、1989年までの間に国内18県に特別学校が設置され、ウランバートル市の6校と合わせて26校になった。
- ・1989年以降の市場経済への移行に伴う社会的・経済的混乱から、特別学校の多くが閉鎖され、現在ではその中でウランバートル市の6校を残すのみとなった。
- ・モンゴル国教育開発マスタープラン(2006~2015年)の中で、特別なニーズ教育に関する以下の計画が示された。
 - ①就学前教育における障害児への社会保障サービスを拡大する中で、普通幼稚園に障害児を入園させる特別な政策の実施、障害児とかわる指導法やスキルに富んだ教員を養成する。
 - ②障害児への教育サービスを拡大して障害児を就学させるために、普通学校に障害児を就学させること、専門機関や専門家が普通学校の教員や児童生徒に対し専門及び指導法的な支援を提供する法的環境を整えること、特別学校が普通学校の教員や児童生徒・保護者に対し専門及び指導法に関する支援を提供すること、障害児の教育ニーズを調査しニーズに合致した様々な教育プログラムを開発・実施する。
- ・2016年夏時点で、ウランバートル市内の複数の通常学校に特別支援学級が設置された。

(2) モンゴル国立教育大学における特別なニーズ教育担当教師の養成

- ・2013年10月に、モンゴル国立教育大学に特別教育についての1年間の専攻科が設置された。第一期生として47名が卒業し、2014年10月からは31人が学んでいる。
- ・2015年10月に、特別なニーズ教育教師養成のための4年制課程が設置された。初年度は10名ほどの入学であったが、2016年には20名を超える入学者があった。
- ・2016年秋にはまだ特別なニーズ教育に関する専門教育は始まっていないが、2017年秋には開始されるため、専門教育のカリキュラムと教育内容、教材についての整備が急がれている。
- ・MNUEと兵庫教育大学の共同研究で実施している「インクルーシブ教育を担う教員養成システム開発についての日蒙共同研究(日本学術振興会二国間交流事業2015-2016年度)」では、知的障害、聴覚障害、自閉症、肢体不自由、障害の早期発見と対応の5つについて、集中講義と教科書の作成を行った。



- ・今後、MNUE での特別なニーズ教育担当教師養成のための教育を担うものとして、兵庫教育大学大学院に留学しているモンゴル人留学生の活躍が期待される。

3 今後の課題と展望

モンゴル国立教育大学では喫緊の課題として以下のことが挙げられる。そのため、兵庫教育大学と今後も研究交流と学生交流を希望するものである。

- ・特別なニーズ教育担当教師養成コースでの教育を担当できる教員が不足している。現在兵庫教育大学で学んでいるモンゴル人留学生の活躍が期待される。
- ・特別なニーズ教育担当教師養成コースで行うべき専門的教育内容や教材が整備されていない。兵庫教育大学との共同研究で、一部については教育内容の整理と教科書作成が行われたが、まだ未整備な部分も多い。さらなる整備に向けた共同研究が期待される。
- ・通常学校において、12年制のカリキュラムについて子ども一人一人の発達を基盤としたものに改善していく必要がある。旧ソ連や東欧の影響を強く受けた教育内容や教育方法ではなく、現代的な学校教育に改めて行く必要がある。そのためには、モンゴル国立教育大学で12年間の学校教育についてのカリキュラムや教育内容、教育方法を研究していく必要がある。そのために、日本をはじめとした先進諸国の教育大学でモンゴル人留学生が学習すること、及び教師教育やカリキュラム開発に関する共同研究が必要である。
- ・兵庫教育大学は、モンゴル国立大学と協力関係のある日本の大学の一つであり、さらなる協力関係の進展を期待している。

2016年11月